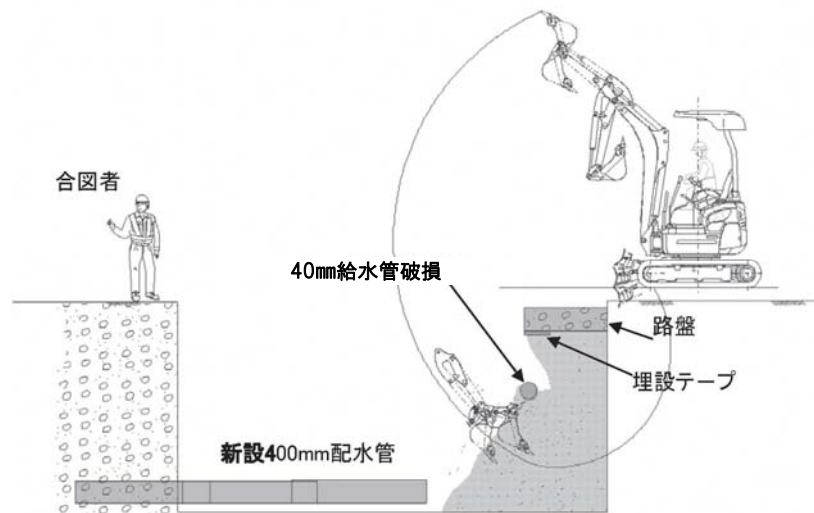


# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月4日(水曜日) 23時52分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	φ40mmGP管・給水管破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	φ400mm配水管布設工事						
事故概要	新設管を布設するためにバックホウで掘削中に、既設の給水管(40mm)を損傷させたもの。						
事故原因	①当該給水管にはマーキングの保安措置を事前調査時に行っていたが、本施工時にはマーキングが消えた状況であった。 ②作業前のKY活動時に、地下埋設物や架空線等上空施設等を下請けの作業責任者には周知していたが、オペレーター等には周知されていなかった。 ③路盤と路床を同時に掘削したため、標識テープを見落としていた。						
改善策	KY活動時に、当日の施工箇所の地下埋設物等の有無を作業従事者全員に管理図を渡して、周知した。 現地にて埋設物位置のマーキングや現場周辺状況(架空線)を指差し確認し、重機関係の配置や合図者の位置や役割を理解したうえで作業を行うこととした。						

## 事故状況図

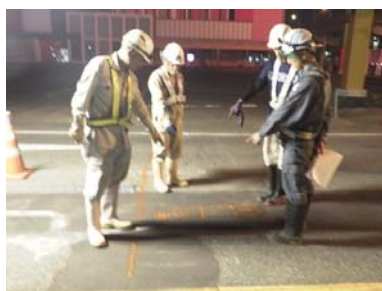


## 改善状況図

埋設管理図にて周知



現地マーキング位置・深さの再周知



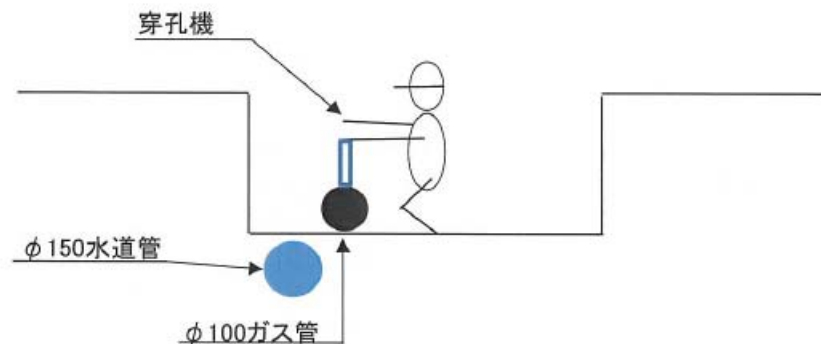
KY活動にて危険要素の洗い出し



## 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月5日(木曜日)11時50分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	ガス管(φ100mm)の破損			事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	既存管に不断水連絡を行う際に、誤ってガス本管を穿孔したものの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管種と継手部材が水道本管に使用するものと同様であった為に、水道管と思い込み確認を怠ったため。</li> <li>・設計図書と地下埋設物管理者の管理図及び試掘結果表との照合確認を怠ったため。</li> <li>・穿孔する計画の管径(φ150mm)と異なっていたにもかかわらず、監督員と協議し指示を仰ぐべきところを怠ったため。</li> </ul>						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全訓練を実施し、下記項目にて事故再発防止に努める事とした。</li> <li>・地下埋設物近接箇所の作業においては、地下埋設物管理図と設計図書の資料等にて、現地で照合確認を複数で行うこと。</li> <li>・作業従事者に、管理図と設計図書にて埋設状況の周知徹底を図ること。</li> <li>・現場で判断が困難な際は、監督員立会のもと、現地の施設物(仕切弁等)を用いての打音調査等の確認作業を行うこと。</li> </ul>						

## 事故状況図



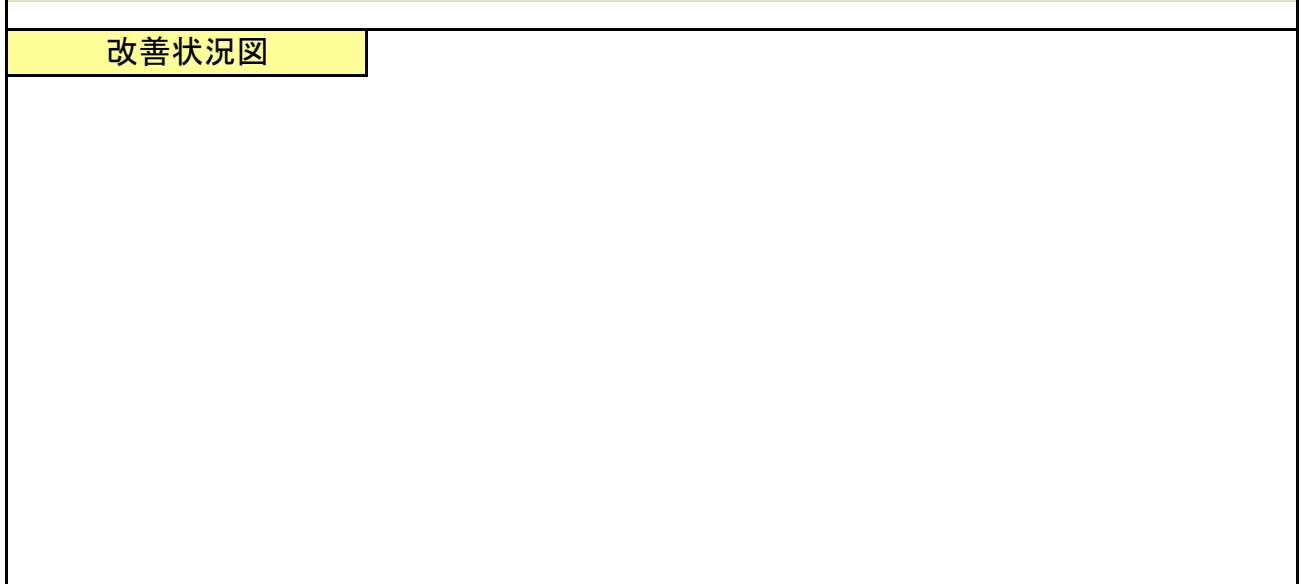
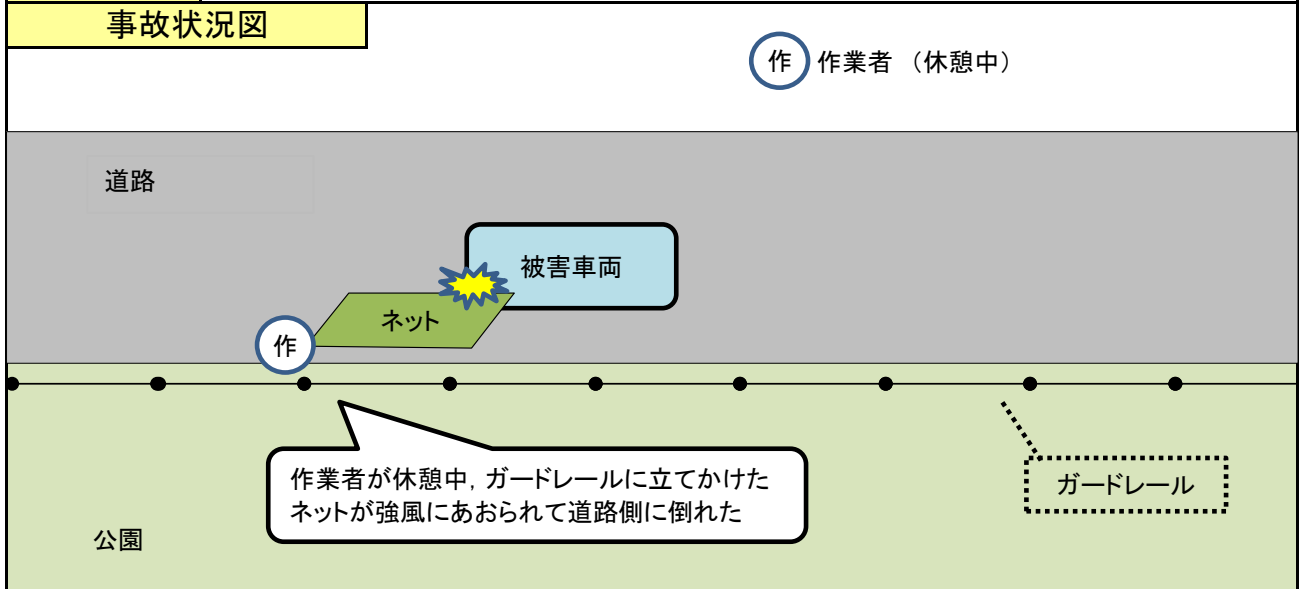
## 改善状況図



再発防止に向けた安全訓練を実施する。

# 公共工事等事故情報

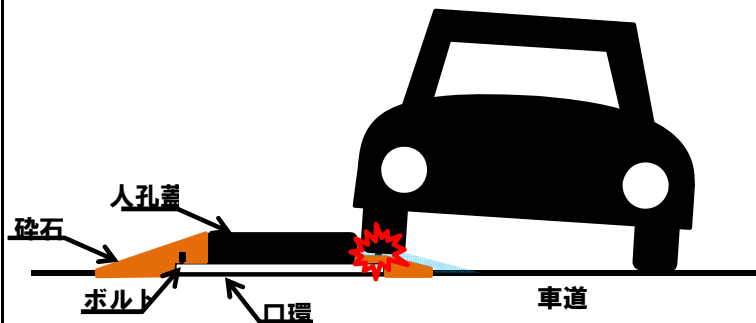
事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月4日(水曜日) 8時 20分			工事関係者区分	元請け
事故区分	その他	性別	男性	年齢	78	業種区分	土木
被災程度	車両物損(左ドアミラー折れ, 左前ドア凹み, 左前ドアバイザー傷, 左前ピラー凹み)			事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	公園内除草清掃作業						
事故概要	除草作業に使用する機械で飛石を防止するネットを設置して作業を行っていたが, ネット担当の作業員が休憩時間となりネットをガードレールに立てかけ手を離れたところ, 風にあおられ通行中の車両に接触し損傷						
事故原因	台風の影響もあり強い風が吹く中での作業で, 飛散防止のネットを養生せずに立てかけることで風にあおられ転倒することは予見できたにも関わらず, 現場責任者が作業従事者の全員の集合と用具の確認を怠ったこと ネット担当者が集合場所に集まらずに単独で休憩し, ネットを立てかけ風にあおられたこと 作業従事者へ対する休憩時の集合や強風の危険性周知が不十分であること						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中止基準として, 大雨警報・暴風警報発令時は行わないこととする。</li> <li>また, 警報の有無に関わらず, 強風時には作業の可否を当日現場管理者が確認し, 危険と判断した場合の作業は行わないこととする。</li> <li>休憩の際は, 下記①②を現場管理者が確認する             <ol style="list-style-type: none"> <li>作業員全員が集合していること</li> <li>用具類は一か所へ集め, 作業場所での置き忘れが無いこと</li> </ol> </li> </ul>						



# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 30年 7月 3日(火曜日) 22時頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	軽自動車タイヤパンク			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	道路改良(バリアフリー化)工事						
事故概要	道路改良工事において、既存構造物(人孔)を計画表層の高さに調整し、既存表層と段差が生じる箇所に碎石で摺り付けて交通開放していたが、台風の降雨の影響で碎石が流され人孔固定ボルトが露出したところを、通過車両が走行しタイヤを損傷させたもの。						
事故原因	摺り付け箇所について、台風の接近で大雨が予想され碎石が流されることは予見できたが、アスファルト合材で仮復旧を施す等の安全確保を図っていなかったため。						
改善策	事故再発防止に努めるため安全訓練を実施し、既存構造物と段差が生じる箇所の仮復旧については、アスファルト合材で行い安全確保を図る必要があることを情報共有した。						

## 事故状況図



□事故発生箇所



□タイヤ破損箇所



## 改善状況図

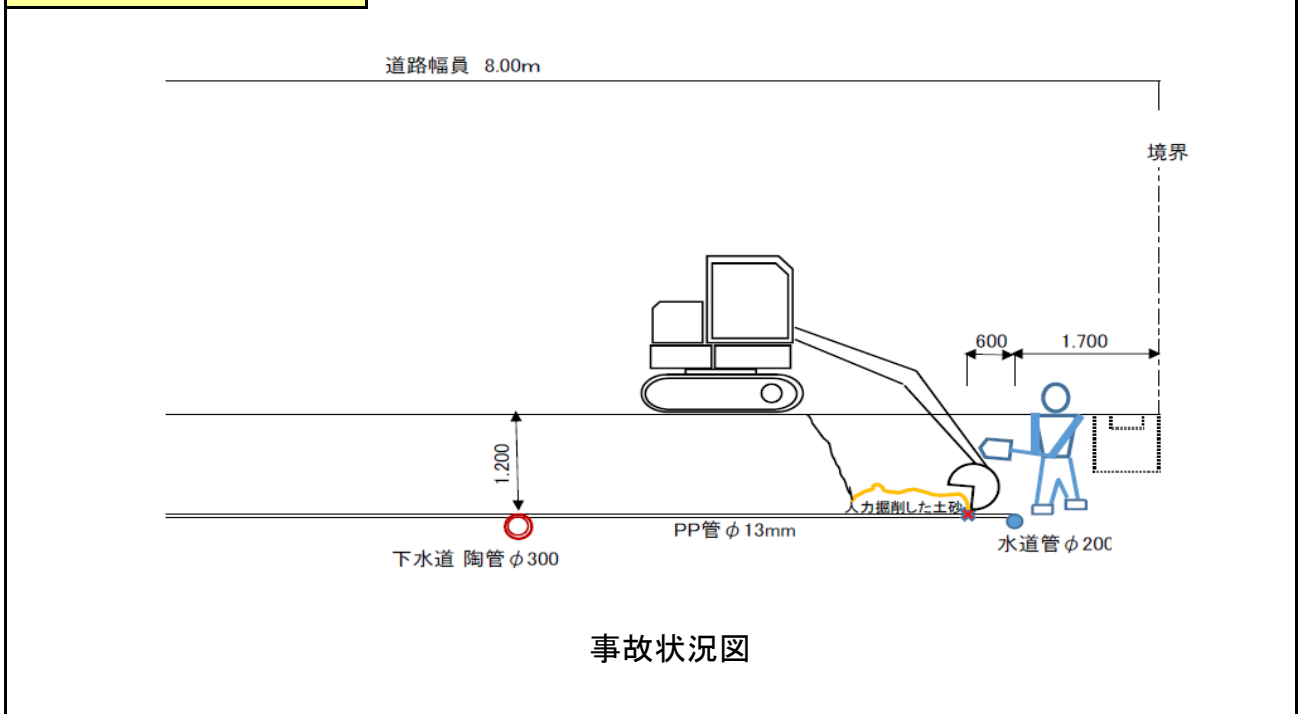


安全訓練の実施開催

# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月9日(月曜日) 10時00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	給水管を破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	汚水柵及び取付管布設替え工事						
事故概要	汚水柵及び取付管の布設替えを行うために人力掘削した土砂をバックホウにて搬出しようとした際に、給水管に接触し破損させたもの。						
事故原因	床付けまで人力で掘削した土砂をバックホウで搬出作業の際に、重機のオペレーターの操作ミスによりバケットの先端が下がり床掘面を掘削したこと、給水管の保安措置(マーキング)を怠ったこと。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下埋設物の台帳と現地を照合し、各地下埋設物のマーキングを実施した。</li> <li>・安全訓練を行い、機械の積み込み方法及び手順についての確認を行った。</li> <li>・日々のKY活動にて作業従事者全員で地下埋設物の指差し確認を行い、埋設物の位置等について共有を図った。</li> </ul>						

## 事故状況図



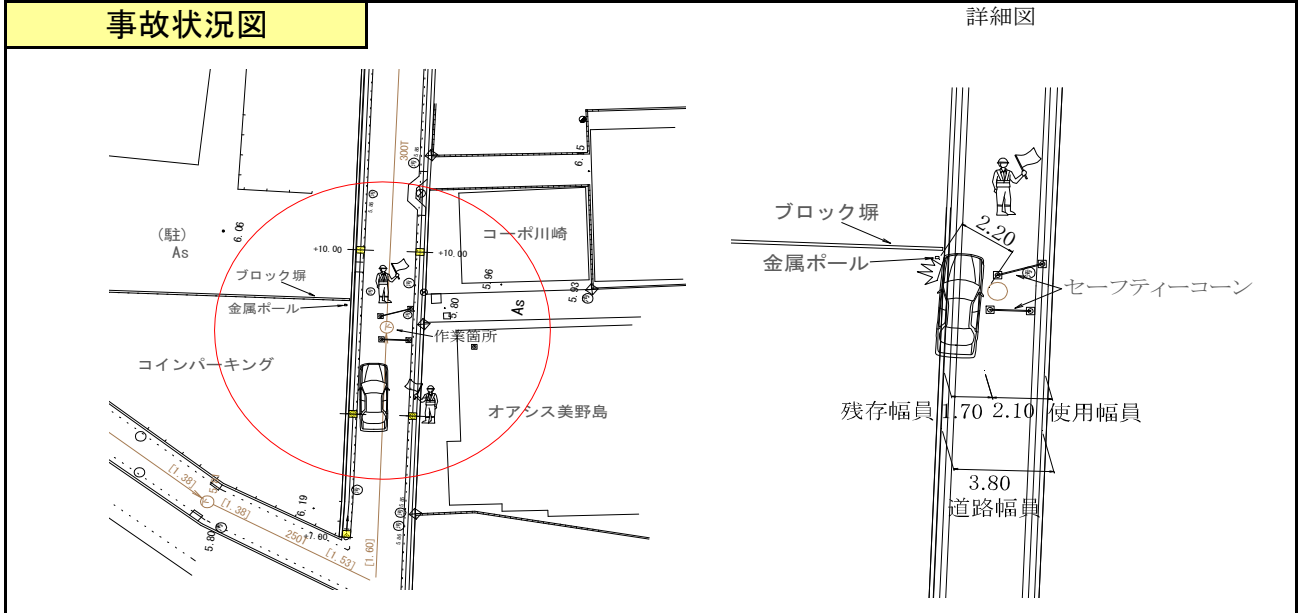
## 改善状況図



# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月2日(月曜日) 11時40分			工事関係者区分	元請け
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	女性	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	車両の助手席側面の擦り傷			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	下水道工事(浸透型側溝工)						
事故概要	人孔内作業時において、通行車両が、道路規制していた人孔付近を交通誘導員の誘導で通過しようとした時に、運転者が人孔側に気を取られ民地側のポールと車が接触し、民地ポールと車助手席側面を損傷させた。						
事故原因	交通誘導員の明確な合図・誘導方法が十分にできておらず、車道幅員と同様な車両を通行させたこと。						
改善策	協力会社を含めて、事故後の再発防止研修を行い、事故の検証・再発防止に努め、安全意識の向上を図った。						

## 事故状況図



## 改善状況図



再発防止研修

# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 7月11日(水曜日) 11時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	自家用車の損傷		事故レベル	I		休業見込日数	—
工事概要	鉛製給水管の更新工事						
事故概要	舗装復旧作業のために片側通行の規制で工事看板等の各種標識を設置して作業を行い、次の作業箇所へ工事看板を移動させようとした際に誤って倒してしまい、車庫に停めてあった車両を損傷させたもの。						
事故原因	点在する工事箇所の舗装復旧作業を片側通行の規制で工事看板等の各種標識を設置し作業を行っていたが、次の工事箇所へ占用帯を保ちながら各種標識を移動する際に、手伝っていた交通誘導警備員が急いで移動しようとして倒したため。						
改善策	安全会議を実施し、下記の事項を行うこととした。 ・余裕のある作業工程に見直し、より安全確認を徹底する。 ・点在する工事箇所を移動する際は一時規制を解除し再度占用帯を設置することとした。 ・現場代理人が周囲の状況を確認し標識類設置箇所を指示することとした。 ・KY活動時に道路使用許可条件や詳細な作業手順を作業従事者及び交通誘導警備員に周知徹底する。						

## 事故状況図



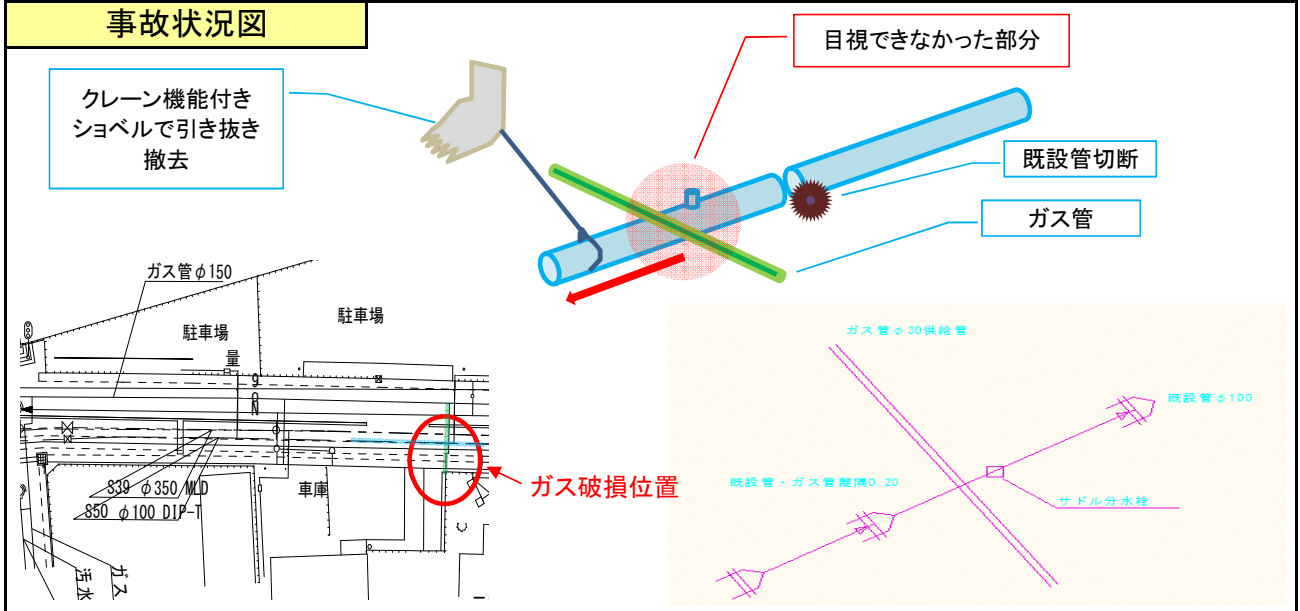
## 改善状況図



安全会議の実施

# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 7月12日(木曜日) 10時20分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	ガス管φ30mm供給管			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	老朽化した配水管の取替え工事(配水管布設替)						
事故概要	既存水道管をクレーン機能付きショベルで撤去を行っていたところ、供給管付近の一部掘山が崩壊した状況で作業を進めた際に、ガスの供給管を破損させた。						
事故原因	一部の掘山が崩壊した際に、ガス管が目視できない状況で作業を続行したこと。						
改善策	安全会議を実施し下記項目を行うこととした。 ・埋設物確認を人力で行い、離隔等の確認を行う。 ・埋設物の保護等(土嚢クッション材)の措置を行う。 ・目視確認者を配置し撤去作業を行う。また、作業中に土砂崩壊など起きた場合は、作業を止め、安全措置・埋設物への影響確認し、管理者確認を行う。 ・作業員から見て、埋設物が目視確認可能な表示を行う。						



### 改善状況図

●安全対策改善会議

◎安全対策改善会議の内容

- ・埋設物確認を人力で行い、離隔等の確認を行う。
- ・埋設物の保護等(土嚢クッション材)の措置を行う。
- ・目視確認者を配置し撤去作業を行う。また、作業中に土砂崩壊など起きた場合は、作業を止め、安全措置・埋設物への影響・管理者確認を行う。
- ・作業員から見て、埋設物が目視確認可能な表示(下記)を行い、事故再発防止に努めます。

通常の  
マーキング

—

離隔が標準以下  
のマーキング

+

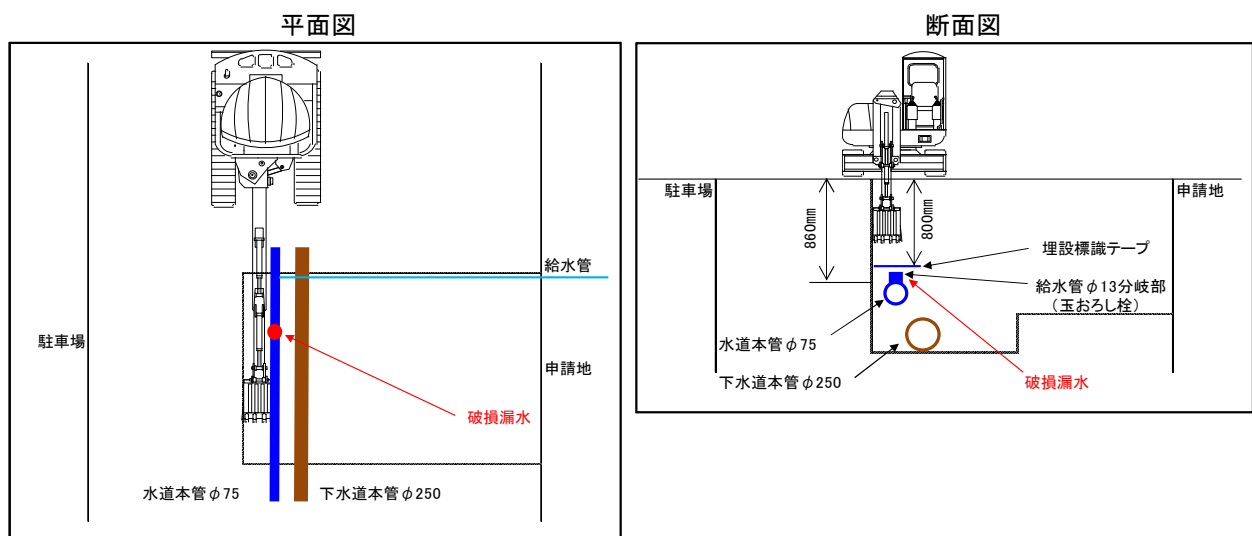
※危険の「キ」  
交差の意味



# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 7月18日(水曜日) 10時10分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	給水管φ13分岐部(玉おろし栓)破損			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	公共汚水樹及び取付管設置工事						
事故概要	公共汚水樹設置工事において、機械掘削中に埋設標識テープが確認されたにも関わらず、機械掘削を継続したところ、給水管φ13分岐部(玉おろし栓)に接触し破損させたもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋設標識テープが確認されたにも関わらず、深い位置に埋設されていると思い込み機械掘削を継続し人力掘削に切り替えなかったこと。</li> <li>地下埋設物がある箇所にはマーキングをしているが、事故時は重機の配置等によって、バックホウのオペレーターから確認できない状況で掘削作業を行ったこと。</li> </ul>						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全訓練を行い、下記の改善策を実施していくことで安全意識の向上を図り、再発防止に努めた。</li> <li>作業前のKY活動において、地下埋設物の状況を指さし確認やマーキングで明確にし、作業従事者全員で共有する。</li> <li>掘削作業中に、埋設標識テープが確認されたら、人力掘削に切り替えることを徹底する。</li> <li>埋設標識テープの有無に関わらず、各事業者の管理する台帳上での埋設深に30cmまで迫ったら、人力掘削に切り替えるよう、社内ルールの見直しを行った。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図



再発防止安全訓練



作業前KY活動時のマーキング及び指さし確認

## 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 30年 7月 23日(月曜日) 13時 50分			工事関係者区分	三次下請
事故区分	その他	性別	男性	年齢	39歳	業種区分	建築
被災程度	手首の裂傷			事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	小学校内部改造工事						
事故概要	土間撤去時に出たタイル片を搬出作業中に、作業者手首に接触し、受傷した。						
事故原因	・作業着と手袋の間にすき間があったこと。						
改善策	・作業着と手袋を覆う装備を着用し、作業員の服装の点検を行うこととした。						

### 事故状況図



作業着と手袋の間にすき間が生じ、タイル片が直に接触し

### 改善状況図

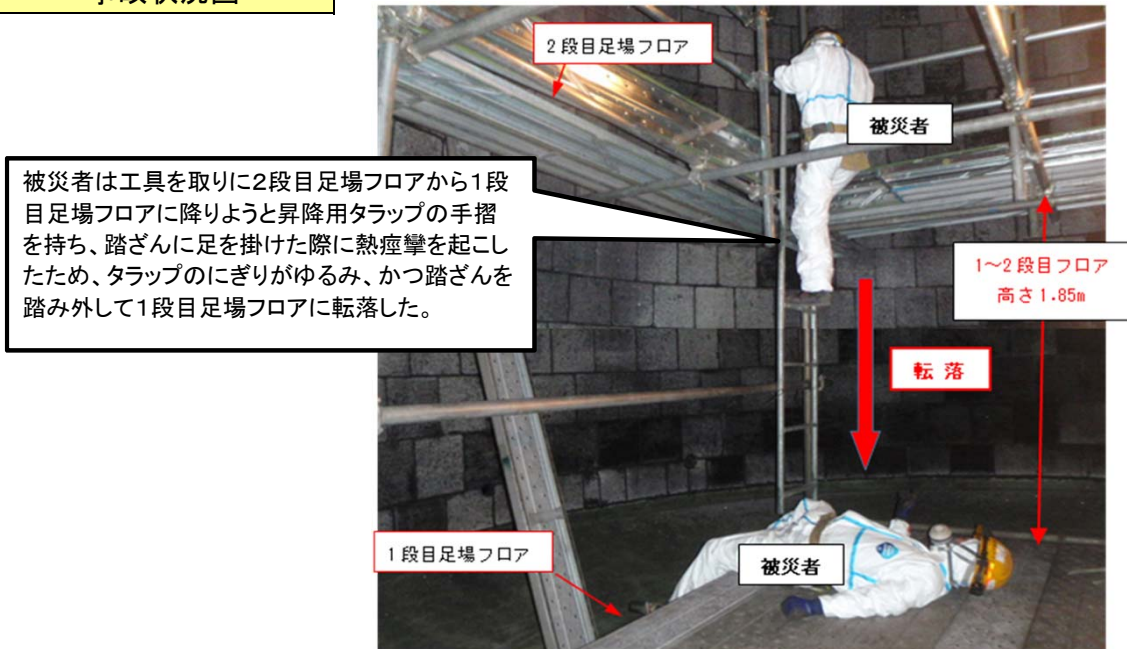


作業着と手袋を覆う装備を用意し着用するものとした。

# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成30年 7月25日(水曜日) 9時10分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	熱中症	性別	男性	年齢	39	業種区分	設備
被災程度	熱中症, 第9胸椎椎体不全骨折, 右鎖骨骨幹部骨折			事故レベル	II	休業見込日数	30日
工事概要	臨海工場1号炉排ガス洗浄装置内点検						
事故概要	排ガス洗浄装置内の足場解体中に、工具を取りに2階足場フロアから1階フロアに降りようと昇降用タラップの手摺を持ち足を掛けた際に、痙攣(熱中症)を起こしたためにタラップの握りが緩み1階のフロアに転落し、右鎖骨等を受傷したもの。						
事故原因	排ガス洗浄装置内の作業は高温高湿度の環境下であることから、作業前のKY活動時に作業従事者の体調管理や連続作業を短くし休憩時間を確保して作業にあっていたが、高温高湿度を低減する対策が不十分であったことに加え、熱中症の知識や初期症状時の対応が不足したこと、さらに作業員の健康管理や安全な作業環境の対策に不十分な点があったため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症の初期症状および発症時の対応について再教育を実施するとともに、高所作業等の危険作業中に熱中症を発症した場合は重篤な2次被害に繋がることを認識させた。</li> <li>・スポットクーラーを設置、使用することで当該箇所の温度、湿度を可能な限り下げることや、熱中症対策グッズを使用することで作業環境を改善した。</li> <li>・危険作業においては作業責任者および作業員同士による体調観察や声掛けを徹底させる。</li> </ul>						

## 事故状況図



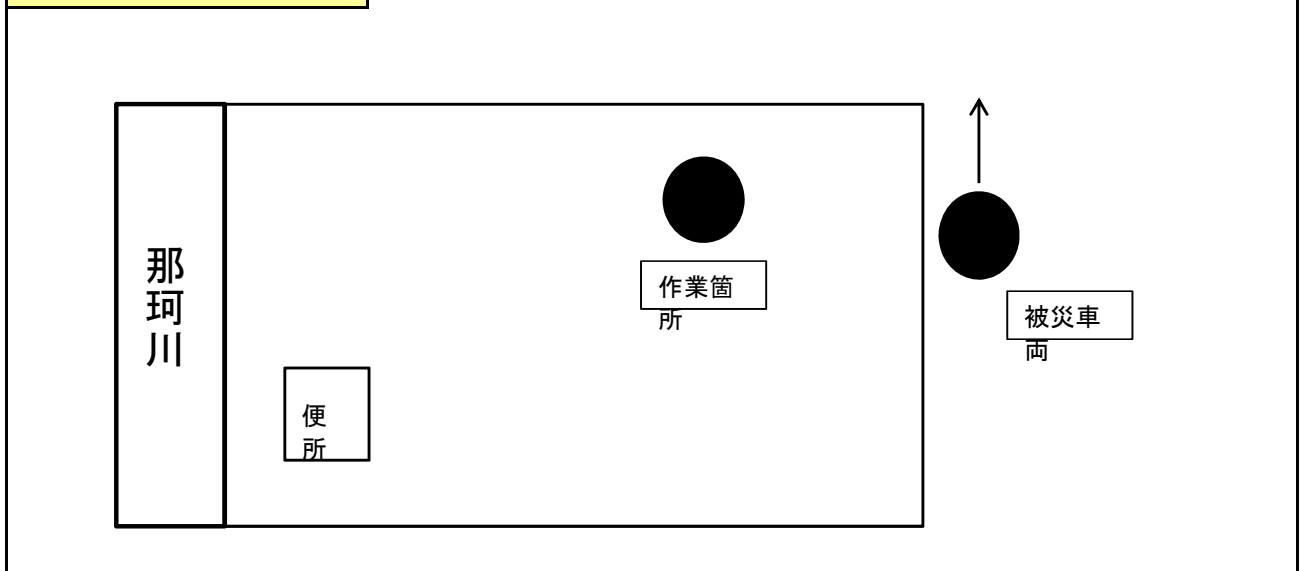
## 改善状況図



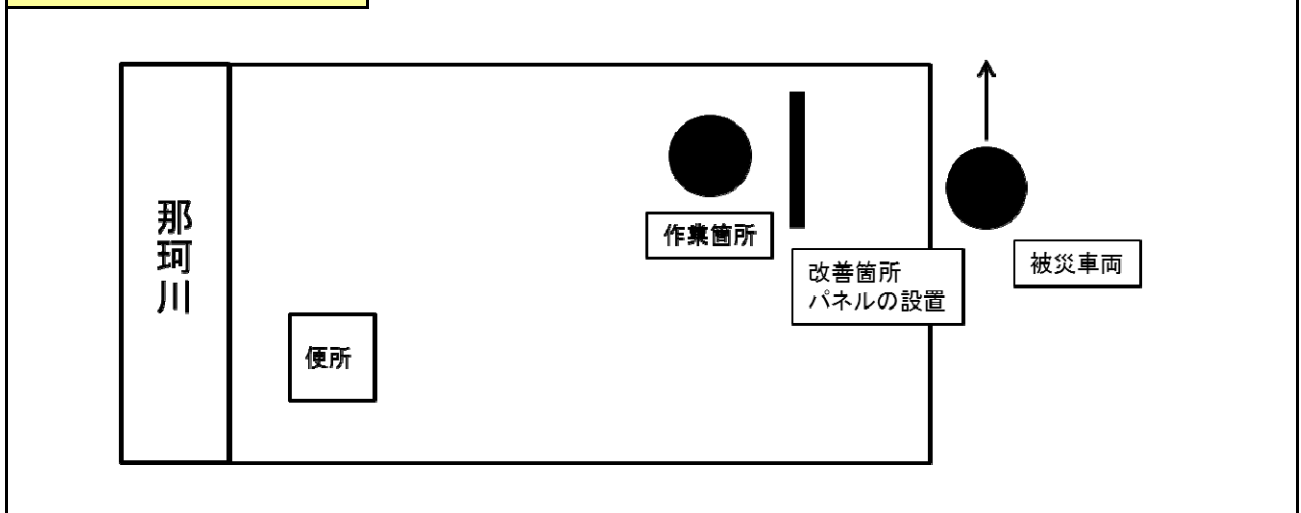
## 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月17日(火曜日) 13時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	走行していた車両に当たり、ドアを損傷させた			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	福岡市中央区春吉2丁目地内 除草作業						
事故概要	肩掛け式草刈機を使用して、除草作業を行った際に飛石し、走行していた車両に当たり、ドアを損傷させた。						
事故原因	道路から離れた付近の除草作業となり、作業員が経験から飛散しないだろうと思い込み防護ネットを設置せずに作業を進めたこと。						
改善策	・草刈機の使用時(特にひも)では、想定よりも遠くに飛び石するため、飛散防止ネットを従来使用のネットから大きいものに交換し、的確に設置することとした。						

### 事故状況図



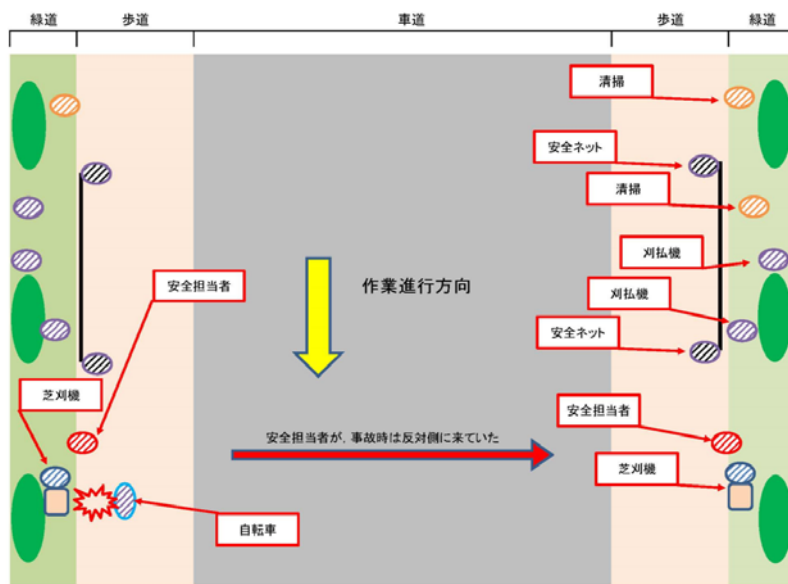
### 改善状況図



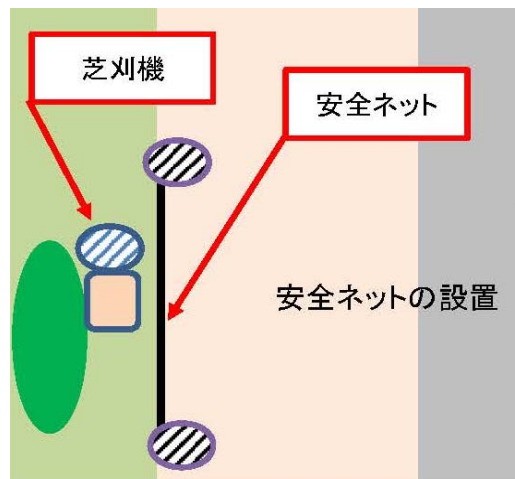
## 公共工事等事故情報

事故分類	死傷公衆災害	発生日時	平成30年 7月26日(木曜日) 8時20分			工事関係者区分	元請け
事故区分	第三者人身	性別	男性	年齢	70	業種区分	土木
被災程度	左手の小指と薬指の間に傷(骨に異常なし)			事故レベル	(技術監理課で記入)	休業見込日数	
工事概要	公園内除草清掃作業						
事故概要	除草作業で使用していた芝刈機から飛石し、歩道を自転車で走行していた通行人の手に当たり、負傷させたもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車道両側の緑道を同時に、安全担当者を2名配置し各班ごとに作業を進めていたが、芝刈機に飛散防止ネットの設置を怠ったこと。</li> <li>・安全担当者が芝刈機の作業停止指示を行わずに反対側の緑道に移動したこと。</li> <li>・現場を管理する責任者が清掃に従事したこと。</li> </ul>						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業者全員への周知、作業チェックシートへの芝刈機飛散防止ネット設置項目の追加、業務遂行責任者による安全点検及び指揮命令の徹底</li> <li>・再発防止策について作業班長・作業従事者に定期的かつ継続した安全教育の実施</li> </ul>						

事故状況図



改善状況図



# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 7月27日(金曜日) 11時 15分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	車両・自転車等損傷	性別		年齢		業種区分	建築
被災程度	軽乗用車 屋根面傷			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	小学校校舎内部改造工事						
事故概要	夏休みの工事で暑さを軽減するために、解体作業箇所の4階廊下の窓を開けて、木下地材(野縁)を廊下の中央部で切断したところ、端部で木下地材を固定する金具(釘)から外れ、窓から切断した野縁片が落下し、車を損傷させた。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定していた金具(釘)が、劣化で外れることを予知していなかったこと。</li> <li>・作業に近接する窓を開けていたこと。</li> </ul>						
改善策	窓の付近の作業において、近接する窓を閉めて作業を行う。						

## 事故状況図



## 改善状況図

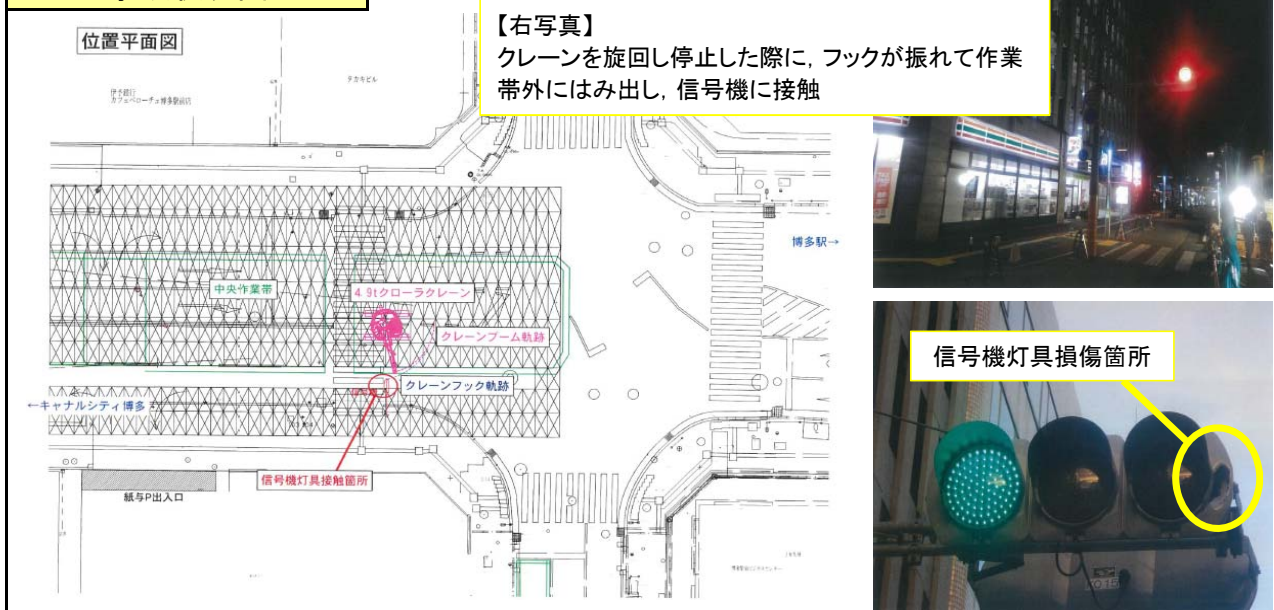


作業付近の窓は閉鎖

# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月31日(火曜日)6時0分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	架空線・信号等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	信号機損傷			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	地下鉄七隈線延伸工事						
事故概要	地盤改良工の準備中(高圧噴射攪拌工の造成)に、4.9tクローラークレーンを旋回し停止した際、吊荷の無い状態のクレーンフックが振れて信号機灯具に接触し、損傷させた。						
事故原因	①クレーンの合図誘導者及びオペレーターが、歩行者信号等に気を取られており、上空のブーム旋回に注意を払っていなかった。 ②クレーンフックが振れることにより、作業帯外に飛び出すことを認識していなかった。 ③必要以上にクレーンのブームを伸ばしていた。						
改善策	①信号機から5m以内のクレーン作業については、合図誘導者とは別に、専用チョッキを着用した架空線監視員を配置し、現地監視下で、クレーン作業を行う。 ②急旋回、急走行、急な巻き上げを行わず、常に低速でのクレーン操作を実施する。 ③ロッド脱着及びスイベルホース整理以外は、信号機の高さより低い位置までクレーンブームを縮める。 ④公共設備近接作業時は、クレーン作業計画書にてクレーン位置及び施設物との位置関係を明確にし、上記対策を実施する。						

## 事故状況図



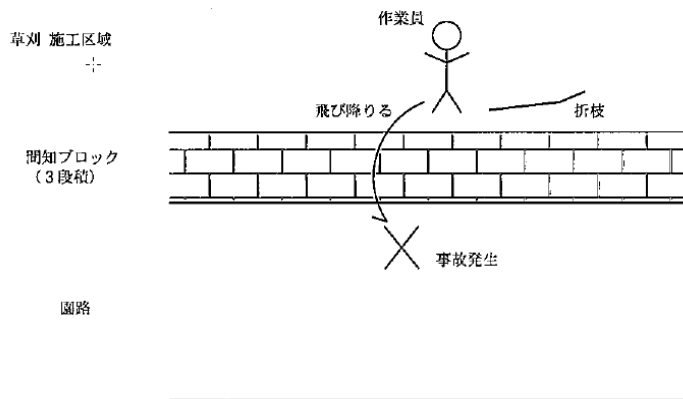
## 改善状況図



# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成30年 7月17日(火曜日) 14時 10分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	その他	性別	男性	年齢	47	業種区分	土木
被災程度	右膝前十字靭帯損傷			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	14
工事概要	公園樹木等管理業務委託						
事故概要	動物園管理作業(機械除草 肩掛式)の際、3段積間知ブロック(高さ1m程)の上段の平地部にて、落ちていた折枝(φ10cm程)を取り除こうとして、バランスを崩し、間知ブロックの下段に飛び降り、その際右足の膝を捻って靭帯を傷めた。(保護具は着用しており、作業機械のエンジンを止めて、横に置いて、折枝を取り除こうとしていた)						
事故原因	段差付近の作業である事の危険予知が不足していた。夏季作業につき、咄嗟の判断力が低下していた。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高所・段差付近の作業時には特に、何も問題ないような作業でも常に危険予知を行いながら、もしもの場合にも対応できるよう作業する。</li> <li>・誰でも夏季作業には、判断力の低下は否めないなので、こまめに休憩・水分補給、無理をしない・させない、夏季作業はがんばらない・体調第一を徹底して行い、判断力の低下防止(集中力維持)に努める。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図

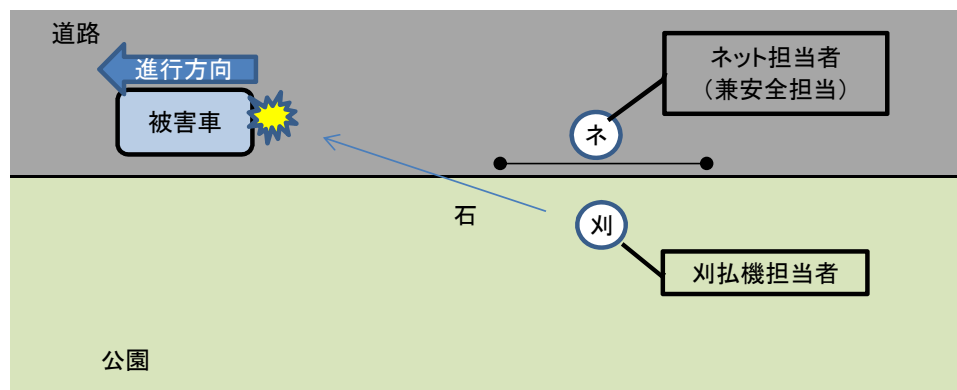




## 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年7月18日(水曜日) 9 時58分		工事関係者区分	元請け
事故区分	両・自転車等損	性別	男性	年齢	業種区分	土木
被災程度	車両後方のガラス割れ		事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	公園内除草清掃作業					
事故概要	肩掛け式刈払機を使用して除草を行った際に飛石し、隣接道路を通過した車両に当たり、後方のガラスを損傷					
事故原因	道路沿いの除草作業は、刈払い機作業者と飛散防止ネット担当者の2人で、道路上に歩行者等がいなかったために、ネット担当者が通過車両や歩行者等の確認と作業の中断を指示する安全担当を兼任して作業を進めていたが、車両の接近に気付かず刈払い機作業の中止の合図が遅れ、作業の中断ができなかったこと					
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者や自転車通行者の通らない道路沿いの作業においても、通行車両に警戒する専任の安全担当者をつけることとした。</li> <li>・現場管理者は現場管理に専念することとした。</li> <li>・作業前チェックリストの危険区域:刈払機停止の項目の内容を、「通行人、車両、作業員から5m以内」に変更した。</li> <li>・業務計画書の作業方法において、「通行人、車両、作業員から5m以内の範囲内においては作業を中断する。」と追記した。</li> <li>・業務遂行責任者・巡視者・安全適正就業担当者の現場パトロールでの確認は以前から行っていたが、今後も徹底する。</li> </ul>					

## 事故状況図



## 改善状況図

